様式【学校評価資料】

秦　小学校

学校経営目標	具体的計画	30年度の達成基準	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 確かな学力の向上	①学力調査から課題や弱点を洗い出し重点的に補充する。学力ケース会議を開催する。 ②復習プリント等で定着状況を把握し，定着するまで繰り返す。 ③家庭学習の習慣が付いていない児童に対して，家庭と連携して指導を行う。	・授業の内容がわかるという回答が80%以上である。　【児童】 ・学校は子どもたちが学習内容がよくわかるように指導しているという回答が80%以上である。　【保護者】 ・子どもたちが授業内容の理解が図れるよう指導工夫をしているという回答が80%以上である。　【教職員】	児童　89% 保護者　96% 教職員　95%	B	・自分の考えをもち、まとめたり表現したりする授業への転換を目指す。	児童　94% 保護者100% 教職員　100%	A	・協同学習を引き続き取り入れ、自他の考えを深めたり自信を持ったりできるようにする。 ・基礎学力向上の充実を図る。 ・少人数指導・長期休業中の補習学習による個別の支援方法を継続して行う。	・学校の評価は適正である。 ・児童・保護者・教職員とも達成状況が目標値以上となり、取組を引き続き行う。
		・家での勉強（宿題・家庭学習）をがんばっているという回答が80%以上である。【児童】 ・お子さんは，家での勉強（宿題・家庭学習）をがんばっているという回答が80%以上である。【保護者】 ・子どもたちが家庭学習に取り組めるよう指導しているという回答が80%以上である。　【教職員】	児童　84% 保護者　88% 教職員　88%	B	・家庭学習の取り組み方を見直す指導を行う。	児童　83% 保護者　91% 教職員　100%	B	・「自主学習ノートの掲示を行う」「学習に対するコメントを工夫する」等継続して行う。 ・家庭学習の手引きの活用を通信や懇談等に取り入れ、家庭への協力を呼びかける。	・学校の自己評価は達成状況からは、厳しく評価していると思われるが、児童がより主体的に取り組むために、今後も取組を継続していくために自己評価を尊重する。
2 豊かな心の育成	①担任による児童の共感的理解を一層深め，信頼関係づくりに努める。 ②あいさつ，掃除，言葉遣いなどの基本的な生活習慣の徹底を図る。 ③だれもが行きたくなる学校づくりのSELやピア・サポートを活用して，思いやりや助け合いの心を育成する。	・元気よくあいさつをしているという回答が80%以上である。【児童】 ・お子さんは，元気よくあいさつをしているという回答が80%以上である。【保護者】 ・子どもたちが元気よくあいさつができるように指導しているという回答が80%以上である。　【教職員】	児童　87% 保護者　88% 教職員 100%	B	・いつでも、どこでも、だれにでも元気よくあいさつできるように指導する。	児童　79% 保護者　85% 教職員　92%	B	・あいさつ運動の継続を行う。 ・出会った人に，自然にあいさつできるよう、授業や日常生活の中で指導を行う。	・中間期の達成状況からは評価基準が下がっているため、自己評価は適切である。
		・友達の気持ちを考えて，だれとでもなかよくしているという回答が80%以上である。【児童】 ・学校は，子どもに思いやりや助け合いの心を育てようとしているという回答が80%以上である。【保護者】 ・子どもに思いやりや助け合いの心が育つように指導しているという回答が80%以上である。【保護者】	児童　94% 保護者　99% 教職員 100%	B	・SEL、協同学習を全クラスで実践する。	児童　85% 保護者　99% 教職員　92%	A	・授業の中で協同学習を取り入れ、認め合いのできる環境作りを行う。 ・教育相談を計画的に取り入れたり臨時に行ったりして、児童理解に努める。 ・特別の教科道徳の授業を充実させる。	・学校の自己評価は適切である。
3 地域に開き、地域から信頼される	①地域の教育力（教育資源）を生かした学校運営を行う。 ②地域への積極的な情報発信（学校だより，ホームページ等）を行う。 ③運動会の5月開催に向けて，意見を集約していく。	・学校は，家庭や地域に積極的に情報発信を行っているという回答が80%以上である。【保護者】 ・家庭や地域に積極的に情報発信を行っているという回答が80%以上である。【教職員】	保護者　99% 教職員 100%	A	・家庭や地域の願いや要望にも耳を傾ける。	保護者　98% 教員　73%	B	・通信や学校便りで教育活動や児童の様子について積極的に伝える。 ・地域連携コーディネーターを中心に教員と地域との連携を深める。	・保護者の評価基準は上回っているが、教職員は下回ったため、自己評価は適切である。
4 元気な学校	①学校行事（特に運動会開催時期）の見直し（やめる・減らす。変える）に取り組む。12月までには目途を立てる。 ②業間休みや昼休みの外遊びを児童委員会を中心に励行する。	・業間休みや昼休みは元気よく遊んでいるという回答が80%以上である。【児童】 ・学校は，子どもの健康の増進や体力づくりに努めているという回答が80%以上である。【保護者】 ・子どもたちが業間休みや昼休みに元気よく遊ぶよう指導しているという回答が80%以上である。【教職員】	児童　87% 保護者　94% 教職員 100%	B	・学校行事の見直しを行う。 ・児童会から外遊びについてアイディアを出す。	児童　89% 保護者　95% 教職員　90%	A	・外遊びの推奨を行うとともに、教員も遊ぶ時間を持つ。 ・業間時間を活用した体力づくり（縄跳び・持久走等）を計画的に行う。	・保護者・教職員ともに評価基準を上回っており，取組は十分に達成されているものと評価される。